

On skew braces: similarities with rings and groups
and their representations

小土境雄太氏との共同研究 (arXiv:2405.08662, Int. J. Group Theory)

Cindy (Sin Yi) Tsang

お茶の水女子大学

環論および表現論シンポジウム

東京学芸大学

2024年9月16日

本研究はJSPS科研費24K16891の助成を受けたものである。

Skew (left) braceの定義

- Skew braceとは、2つの群演算 \cdot と \circ を備えた集合 $A = (A, \cdot, \circ)$ であって、かつ任意の $a, b, c \in A$ に対して、brace relationとも呼ばれる関係式

$$a \circ (b \cdot c) = (a \circ b) \cdot \underline{a^{-1}} \cdot (a \circ c)$$

a の (A, \cdot) における逆元

が成り立つような代数的構造である。このとき、

- (A, \cdot) を A の加法群と呼び、 \leftarrow \mathcal{P} -ベル群とは限らない
- (A, \circ) を A の乗法群と呼ぶ。
- 注: Brace relationより、 (A, \cdot) と (A, \circ) の単位元が一致する。

Radical環と群からskew braceを作る方法

Radical 環から skew brace を作る方法

- $(A, +, \cdot)$ を 環 とする. 任意の $a, b \in A$ に対して.

$$a \circ b = a + b + a \cdot b$$

とよくと、 (A, \circ) は系結合 法則 を 満たし、単位元 0_A を持つ.

- $(A, +, \cdot)$ が radical であるとは、 (A, \circ) が 群 を なす とき に 言う. このとき、

↳ $(A, +)$ は 群 を 成す. 環の定義!

↳ (A, \circ) は 群 を 成す. radical 環の定義!

↳ $\forall a, b, c \in A: a \circ (b + c) = (a \circ b) - a + (a \circ c)$. 簡単に確認される!

つまり、 $(A, +, \circ)$ が "skew brace" である.

群から skew brace を作る方法: その一

- (A, \cdot) を群とする. 1 任意の $a, b \in A$ に対して.

$$a \circ b = a \cdot b$$

と置く. つまり, \circ を \cdot のままとする. このとき,

↳ (A, \cdot) は群である. 仮定から!

↳ (A, \circ) は群である. 自明!

↳ $\forall a, b, c \in A: a \circ (b \cdot c) = (a \circ b) \cdot a^{-1} \cdot (a \circ c)$. 両辺とも $a \cdot b \cdot c$!

- つまり, (A, \cdot, \circ) は skew brace である.

- (A, \cdot, \circ) の形を有する skew brace は trivial であるという.

群から skew brace を作る方法: その二

- (A, \cdot) を群とする. 1 任意の $a, b \in A$ に対して.

$$a \circ b = a \cdot^{\text{op}} b = b \cdot a$$

と置く. つまり, \circ を \cdot の opposite 演算 \cdot^{op} とする. このとき,

↳ (A, \cdot) は群である. 仮定から!

↳ (A, \circ) は群である. 自明!

↳ $\forall a, b, c \in A: a \circ (b \cdot c) = (a \circ b) \cdot a^{-1} \cdot (a \circ c)$. 両辺とも $b \cdot c \cdot a!$

- つまり, (A, \cdot, \circ) は skew brace である.

- $(A, \cdot, \cdot^{\text{op}})$ の形を有する skew brace は almost trivial であると言う.

Screw brace における左右イデピン

Srew braceにおける左イデールと右イデール

- $A = (A, \cdot, \circ)$ は srew brace とする。任意の $a, b \in A$ に対して、

$$a * b = a^{-1} \cdot (a \circ b) \cdot b^{-1}$$

となく、 $*$ は加法群の演算 \cdot と乗法群の演算 \circ の差を測っている。

- 実際、 $a * b = 1 \iff a \cdot b = a \circ b$ が成り立つ。

- 加法群 (A, \cdot) の部分群 I について、

$$\hookrightarrow I \text{ が } A \text{ の左イデール} \stackrel{\text{def}}{\iff} \forall a \in A, x \in I : a * x \in I$$

$$\hookrightarrow I \text{ が } A \text{ の右イデール} \stackrel{\text{def}}{\iff} \forall a \in A, x \in I : x * a \in I$$

Radical \mathbb{F}_q からなる skew brace, trivial skew brace,
almost trivial skew brace $n \pm \frac{p}{m} \sqrt{2}$

Radical 環からなる skew brace の場合

- $(A, +, \cdot)$ を radical 環とする. 任意の $a, b \in A$ に対して,

$$a \circ b = a + b + a \cdot b$$

とすると、 $A = (A, +, \circ)$ が "skew brace" となる. このとき、

$$\begin{aligned} a * b &= -a + (a \circ b) - b \\ &= -a + (a + b + a \cdot b) - b \\ &= a \cdot b \end{aligned}$$

加法群 (A, \cdot) の部分群 I について、

$$\hookrightarrow I \text{ が } A \text{ の左イデアル} \stackrel{\text{def}}{\iff} \forall a \in A, x \in I : a * x \in I$$

$$\hookrightarrow I \text{ が } A \text{ の右イデアル} \stackrel{\text{def}}{\iff} \forall a \in A, x \in I : x * a \in I$$

• したがって、「 A の左イデアル」 = 「 $(A, +, \cdot)$ の左イデアル」.

「 A の右イデアル」 = 「 $(A, +, \cdot)$ の右イデアル」.

Trivial skew brace の場合

- (A, \cdot) を群とする. 任意の $a, b \in A$ に対して.

$$a \circ b = a \cdot b$$

とすると, $A = (A, \cdot, \circ)$ は skew brace となる. このとき,

$$\begin{aligned} a * b &= a^{-1} \cdot (a \circ b) \cdot b^{-1} \\ &= a^{-1} \cdot (a \cdot b) \cdot b^{-1} \\ &= 1 \end{aligned}$$

加法群 (A, \cdot) の部分群 I について,

$$\hookrightarrow I \text{ が } A \text{ の左イデール } \stackrel{\text{def}}{\iff} \forall a \in A, x \in I : a * x \in I$$

$$\hookrightarrow I \text{ が } A \text{ の右イデール } \stackrel{\text{def}}{\iff} \forall a \in A, x \in I : x * a \in I$$

- したがって, 「 A の左イデール」 = 「 (A, \cdot) の部分群」.

$$\text{「} A \text{ の右イデール」} = \text{「}(A, \cdot) \text{ の部分群」.}$$

Almost trivial skew brace の場合

- (A, \cdot) を群とする. 任意の $a, b \in A$ に対して,

$$a \circ b = a \cdot b = b \cdot a$$

とすると, $A = (A, \cdot, \circ)$ は skew brace となる. このとき,

$$\begin{aligned} a * b &= a^{-1} \cdot (a \circ b) \cdot b^{-1} \\ &= a^{-1} \cdot (b \cdot a) \cdot b^{-1} \\ &= [a^{-1}, b] \leftarrow \text{群 } (A, \cdot) \text{ の交換子} \end{aligned}$$

加法群 (A, \cdot) の部分群 I について,

$$\hookrightarrow I \text{ が } A \text{ の左イデアル} \stackrel{\text{def}}{\iff} \forall a \in A, x \in I : a * x \in I$$

$$\hookrightarrow I \text{ が } A \text{ の右イデアル} \stackrel{\text{def}}{\iff} \forall a \in A, x \in I : x * a \in I$$

- したがって, 「 A の左イデアル」 = 「 (A, \cdot) の正規部分群」,
「 A の右イデアル」 = 「 (A, \cdot) の正規部分群」.

Screw braceに交ける左右のベクトル(補足)

Srew braceにおける左イデアルと右イデアル (つづき)

• $A = (A, \cdot, \circ)$ は srew brace とする.

• 加法群 (A, \cdot) の部分群 I について、

$$\hookrightarrow I \text{ が } A \text{ の左イデアル} \stackrel{\text{def}}{\iff} \forall a \in A, x \in I : a * x \in I$$

$$\hookrightarrow I \text{ が } A \text{ の右イデアル} \stackrel{\text{def}}{\iff} \forall a \in A, x \in I : x * a \in I$$

• 注1: A の左イデアルも右イデアルも自動的に乗法群 (A, \circ) の部分群となる.

$$x \circ y = x^{-1} \cdot (x * y) \cdot y^{-1}$$

$$\underline{\bar{x}} = ((\bar{x} * x) \cdot x)^{-1} = (x \cdot (x * \bar{x}))^{-1}$$

x の (A, \circ) における逆元

• 注2: A の左イデール I に対して, $\forall a \in A: a \cdot I = a \circ I$ が成り立つ.

$$(\supseteq) a \circ x = a \cdot ((a * x) \cdot x)$$

$$(\subseteq) a \cdot x = a \circ ((\bar{a} * x) \cdot x) \quad \text{—— } \boxed{\text{左}}$$

• 注3: A の右イデール I に対して, $\forall a \in A: I \cdot a \supseteq I \circ a$ が成り立つ.

$$(\supseteq) x \circ a = (x \cdot (x * a)) \cdot a$$

$$(\subseteq) x \cdot a = (????????) \circ a \quad \text{—— } \boxed{\text{右}}$$

$$\boxed{\text{左}} \text{ 左は, } \bar{a} \circ (a \cdot x) = (\bar{a} \circ a) \cdot \bar{a}^{-1} \cdot (\bar{a} \circ x) \quad \leftarrow \text{brace relation}$$

$$= \bar{a}^{-1} \cdot (\bar{a} \circ x) \cdot x^{-1} \cdot x$$

$$= (\bar{a} * x) \cdot x \quad \text{と計算できるが...}$$

\bar{a} の (A, \circ) における逆元

$$\square$$

$$z^{\text{は}}. (x \cdot a) \circ \bar{a} \stackrel{?}{=} (x \circ \bar{a}) \cdot \bar{a}^{-1} \cdot (a \circ \bar{a}) \leftarrow \text{brace relation の右バージョン}$$

$$= x \cdot x^{-1} \cdot (x \circ \bar{a}) \cdot \bar{a}^{-1}$$

$$= x \cdot (x * \bar{a}) \text{ と計算できるとは限らない.}$$

$I \cdot a \neq I \circ a$ を満たす右イデールの具体例が欲しかったが、無限 skew brace を考えないといけなくて見つけれなかった。

- 注4: Skew brace の研究において、左イデールは非常に重要であり、よく出てくるけれど、右イデールに関しては、私が一回使ったことがあるだけで、他の論文では見たことがない気がする...

\hookrightarrow C. Tsang, A generalization of Ho's theorem to skew braces,
 J. Algebra 642 (2024), 367-399.

Screw brace に付く 17" 21"

Srew brace におけるイデアル

- 環において、イデアルは商環を作るために必要な部分構造である。
- Srew brace において、商 srew brace を作るために必要な部分構造は？
- $A = (A, \cdot, \circ)$ を srew brace とする。
- A の部分集合 I がイデアルであるとは、
 - (i) I は加法群 (A, \cdot) の正規部分群である。
 - (ii) I は乗法群 (A, \circ) の正規部分群である。
 - (iii) $\forall a \in A: a \cdot I = a \circ I$.

が成り立つときに言う。このとき、

$$A/I = \{a \cdot I : a \in A\} = \{a \circ I : a \in A\}$$

に代りて、自然な群演算 \cdot と \circ を

$$(a \cdot I) \cdot (b \cdot I) = (a \cdot b) \cdot I$$

$$(a \circ I) \circ (b \circ I) = (a \circ b) \circ I$$

$a \cdot I = a \circ I$ は重要!!

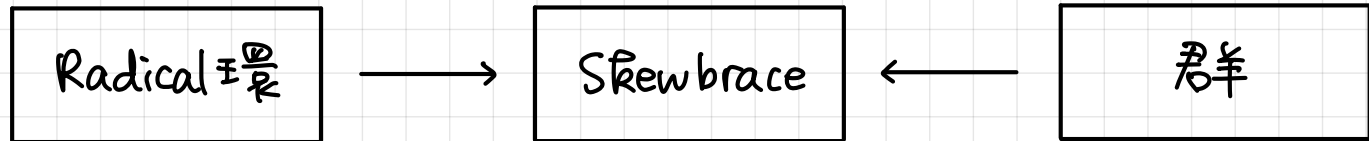
とよく \cdot が \circ とき、 $(A/I, \cdot, \circ)$ は skew brace となる。

- ・注: Skew brace において、「1元」群 \neq 「左1元」群 + 「右1元」群 である。例えば、trivial skew brace $A = (A, \cdot, \circ)$ において、

「 A の左1元」群 = 「 A の右1元」群 = 「 (A, \cdot) の部分群」 だが、

「 A の1元」群 = 「 (A, \cdot) の正規部分群」 である。

Screw braceの表現について



- 環論或いは群論における研究手法、根死念、定理などを skew brace に拡張する研究が多々ある。
- 最近、skew brace の表現が Letourmy-Vendramin によって定義された。その定義は Zhu に基づいている。

↳ T. Letourmy, L. Vendramin, Schur covers of finite skew braces,
J. Algebra 644 (2024), 609–654.

↳ H. Zhu, The construction of braided tensor categories from Hopf brace,
Linear Multilinear Algebra 70 (2022), no. 16, 3171–3188.

S Rew braceの表現 (係数体Rを固定しておく)

- $A = (A, \cdot, \circ)$ を s Rew brace とする. このとき、 A の **加法群** (A, \cdot) と **乗法群** (A, \circ) 、2つの群がある.
- Letourmy-Vendramin によると、 A の **表現** とは、

- (i) **加法群**の表現 $\beta: (A, \cdot) \rightarrow GL(V)$
 - (ii) **乗法群**の表現 $\rho: (A, \circ) \rightarrow GL(V)$
- 作用されるベクトル空間は同じものとする.

のなす $\rho(\beta, \rho)$ である. が

$$(iii) \forall a, b \in A: \beta((a \circ b) \cdot a^{-1}) = \rho(a) \beta(b) \rho(a)^{-1} \quad \leftarrow \text{何じやないか??}$$

を満足するものである.

Srew braceのlambda写像

- $A = (A, \cdot, \circ)$ を srew brace とする。A の lambda 写像とは、

$$\lambda: (A, \circ) \longrightarrow \text{Aut}(A, \cdot) ; a \mapsto \lambda_a, \lambda_a(b) = a^{-1} \cdot (a \circ b)$$

のことを指す。λ が 群準同型 であるのはよく知られている。

- Srew brace の研究において、λ を使うのが「一般的であるが」、ここは Letourmy - Vendramin に従って、以下の写像を使う。

$$\lambda^{\circ}: (A, \circ) \longrightarrow \text{Aut}(A, \cdot) ; a \mapsto \lambda_a^{\circ}, \lambda_a^{\circ}(b) = (a \circ b) \cdot a^{-1}$$

同様に、 λ° も群準同型である。左右の選択の違いだけであって、λ を使っても λ° を使っても本質は変わらないはず。

S Rew braceの表現 (つづき)

• $A = (A, \cdot, \circ)$ を s Rew brace とする. A の表現とは.

- (i) 加法群の表現 $\beta: (A, \cdot) \rightarrow GL(V)$
 - (ii) 乗法群の表現 $\rho: (A, \circ) \rightarrow GL(V)$
- 作用されるベクトル空間は同じものとする.

のなす $\rho(\beta, \rho)$ が成り立つ.

$\lambda^\rho: (A, \circ) \rightarrow \text{Aut}(A, \cdot)$
は群準同型である.

(iii) $\forall a, b \in A: \underline{\beta(\lambda_a^\rho(b)) = \rho(a)\beta(b)\rho(a)^{-1}}$

が満たすものである.

この共役作用を反映している

$(A, \cdot) \rtimes_{\lambda^\rho} (A, \circ)$ において $\underline{\lambda_a^\rho(b) = aba^{-1}}$ が成り立つ.

$\underbrace{\quad}_{\substack{\psi \\ b}} \quad \underbrace{\quad}_{\substack{\psi \\ a}} \quad \underbrace{\quad}_{\text{半直積群の定義}}$

• ということは、 A の表現とは、

- (i) 加法群の表現 $\beta: (A, +) \rightarrow GL(V)$ 作用されるベクトル空間
(ii) 乗法群の表現 $\rho: (A, \cdot) \rightarrow GL(V)$ 空間は同じものとする。

のなす $\rho(\beta, \rho)$ があって、かつ

(iii) $\varphi_{(\beta, \rho)}: (A, +) \times_{\lambda, \rho} (A, \cdot) \rightarrow GL(V)$; $\varphi_{(\beta, \rho)}(b, a) = \beta(b)\rho(a)$ が準同型

を満たすものとして定義することもできる。

• したがって、Letourmy-Vendramin が (はこのように) は記述されていないが、

Srew brace (A, \cdot, \circ) の表現 \Longleftrightarrow 群 $(A, \cdot) \times_{\lambda, \rho} (A, \circ)$ の表現

$$(\beta, \rho) \longleftrightarrow \varphi_{(\beta, \rho)}$$

- この対応を鑑みて、既約、直既約、完全可約などの性質に対して。

$$(\beta, \rho) \text{ が } \underline{\hspace{2cm}} \text{ である} \iff \varphi_{(\beta, \rho)} \text{ が } \underline{\hspace{2cm}} \text{ である}$$

と定義するのが自然である。

- 問: 群の表現論をどこまで skewbrace の表現論に展開できるか?

- 私たちの論文では、以下の定理の skewbrace 版を考えた。

↳ Maschkeの定理とその逆

↳ Cliffordの定理 (weak ver. と strong ver.)

↳ 定理: $\text{char}(R) = p$ が正であるとき、有限群 G に対して、

$$|G| = p^* \iff G \text{ の既約表現は自明な表現のみ.}$$

Cliffordの定理 (weak ver.) の skew brace 版

群の場合

G が有限群であり、 N が G の正規部分群であるとき、
 G の任意の既約表現 ρ について、 $\rho|_N$ は完全可約である。

Skew brace の場合

→ (I, \cdot, \circ) も skew brace となる

$A = (A, \cdot, \circ)$ が有限 skew brace であり、 I が A のイデアルであるとき、

A の任意の既約表現 (β, ρ) について、 $(\beta|_I, \rho|_I)$ は完全可約である。

証明 skew brace (A, \cdot, \circ) の表現 \iff 群 $(A, \cdot) \times_{\lambda \circ \rho} (A, \circ)$ の表現

$$(\beta, \rho) \longleftrightarrow \varphi_{(\beta, \rho)}$$

この対応より、 (β, ρ) が skew brace $A = (A, \cdot, \circ)$ の既約表現

$\stackrel{\text{def}}{\iff} \Psi_{(\beta, \rho)}$ が群 $(A, \circ) \rtimes_{\lambda, \rho} (A, \circ)$ の既約表現

$\stackrel{\text{Clifford}}{\implies} \Psi_{(\beta, \rho)}|_{(I, \circ) \rtimes (I, \circ)}$ が群 $(I, \circ) \rtimes_{\lambda, \rho} (I, \circ)$ の完全可約表現

$\stackrel{\text{def}}{\iff} (\rho|_I, \rho|_I)$ が skew brace $I = (I, \circ)$ の完全可約表現

$\rightarrow (I, \circ) \rtimes_{\lambda, \rho} (I, \circ)$ は $(A, \circ) \rtimes_{\lambda, \rho} (A, \circ)$ の正規部分群だから使える。

For any $(a, b) \in \Lambda_A$ and $(x, y) \in \Lambda_I$, we first observe that

$$(3.3) \quad \lambda_b(x), b\lambda_b(x)b^{-1}, z, \bar{a} \circ z \circ a, \lambda_a(\bar{a} \circ z \circ a) \in I$$

because I is an ideal of A , where $z = b \circ y \circ \bar{b}$. Now, we have

$$\begin{aligned} (a, b) \cdot (x, y) \cdot (a, b)^{-1} &= (a\lambda_b^{\text{op}}(x), b \circ y) \cdot (\lambda_b^{\text{op}}(a)^{-1}, \bar{b}) \\ &= (a\lambda_b^{\text{op}}(x)\lambda_{b \circ y \circ \bar{b}}^{\text{op}}(a)^{-1}, b \circ y \circ \bar{b}) \\ (3.4) \quad &= (a \cdot b\lambda_b(x)b^{-1} \cdot z\lambda_z(a)^{-1}z^{-1}, z) \end{aligned}$$

in the group Λ_A . By (3.3), modulo the normal subgroup (I, \cdot) , we have

$$\begin{aligned} a \cdot b\lambda_b(x)b^{-1} \cdot z\lambda_z(a)^{-1}z^{-1} &\equiv a\lambda_z(a)^{-1} \\ &\equiv a(z \circ a)^{-1}z \\ &\equiv a(a \circ \bar{a} \circ z \circ a)^{-1} \\ &\equiv a(a\lambda_a(\bar{a} \circ z \circ a))^{-1} \\ &\equiv aa^{-1} \\ &\equiv 1 \end{aligned}$$

今後の展望

- 他の定理の skew brace 片版?
- Skew brace の表現の応用?
- Skew brace の表現の定義の見直し?

↓
本日ご紹介したのは Letourmy-Vendramin
と Zhu による定義ですが、もと相應しい
定義の仕方があるかもしれない??

ご清聴
ありがとうございました

